

令和5(2023)年度健康長寿とちぎづくり表彰 受賞事業所・団体の取組一覧

【健康経営部門】

受賞者		取組テーマ	主な取組	取組の効果等(アピールポイント)
最優秀賞	NTT東日本一関信越 栃木支店	社員の健康維持・増進に向けた各種健康施策の実施(社員の健康意識向上に向けた取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・「禁煙・禁酒(減煙・減酒)」「ウォーキング」「ストレッチ」の3つから、各自チャレンジするテーマを選定し、1ヶ月間取り組む「健康増進チャレンジ月間」の実施 ・社員食堂におけるヘルシーメニューの提供及び食事への関心を促すための旬の食材等の情報を掲示 ・特定保健指導完了率向上のため、本人への案内に加え、対象者の上司へも受診案内を送付 ・社員へのメンタルヘルスケアとして、若手社員向け、管理者向けメンタルヘルス研修等の実施及びパルスサーベイを運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ期間中の取組内容の配信や、上位表彰の実施など、社員の取組意欲向上に努めた結果、社員の70%が健康増進チャレンジに参加し、健康に対する意識向上につながった。 ・社員の食事への関心を促すため、ビル正面入口と社員食堂入口に、メニューや旬な食材の情報等を掲示するパネルを設置するとともに、ヘルシーメニューを提供し社員がバランスの良い食事がとれるよう工夫した。 ・メンタルヘルス研修の実施により、セルフケアを学ぶだけでなく、グループワークで若手社員同士の悩み等を共有する機会ともなった。
優秀賞	株式会社 乃木建設産業	心身ともに健康で働ける環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、ラジオ体操と平均台歩行を実施し、社員の健康状態を確認 ・弁当の栄養成分表示やヘルシー弁当メニューの提供を実施 ・従業員だけでなく、扶養者に対しても特定健康診査の受診勧奨を実施 ・特定保健指導を勤務時間内に実施できるよう、時間と場所を確保 ・たばこが身体に及ぼす影響の情報提示及び、建物内全面禁煙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操後に平均台歩行を全員でやることで、その日の体調を大勢の目で確認している。 ・特定保健指導を受けることで健康管理の意識が高まり、健康に関する情報を社員同士で共有するようになった。
	株式会社八興	心身ともに健康で、安心して長く働ける会社であるために	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトも含む全社員の健康診断を全額会社負担で実施し、出勤日扱いとしている。また、がんの早期発見のため、腫瘍マーカー検査を会社負担で追加 ・健康診断の再検査受診率100%を目指し、再検査のための特別有給休暇を付与。なお、再検査が必要の無い社員には有給休暇を1日付与 ・禁煙外来にかかる治療費を全額補助 ・毎日のストレッチに加え、社内でのスポーツイベントを開催 ・運動習慣の定着のためにスポーツジムの費用を補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する新しい制度創設や、セミナー・イベントの開催等により、運動を始めたり、食生活に気を付けたり、禁煙に成功したりと、社員の健康意識の向上につながった。 ・スポーツイベントでは、新型コロナウイルスの影響で減っていた社内のコミュニケーションの増加につながった。

【健康応援部門】

受賞者		取組テーマ	主な取組	取組の効果等(アピールポイント)
最優秀賞	医療法人緑新会 四葉みみ・はな・のど クリニック	「高齢者の耳掃除の大切さについて」～フレイルと難聴・認知症の関係～	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民に向けて、ホームページ内にフレイル専用ページを作成したほか、「耳掃除と難聴・認知症の関係」のパンフレットを作成し啓発を実施 ・老人ホーム職員に対し、オンラインセミナー「耳掃除のリスク」を開催 ・自院職員がヒアリングフレイルサポーター講習を受講するなどの職員教育を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳鼻咽喉科医の立場から300名を超える高齢者のフレイル予防に貢献 ・難聴を加齢のためと諦めていた高齢者の方々に対する支援を実施
優秀賞	一般社団法人 栃木県言語聴覚士会	「失語症でもお話したい!!」～ST、地域住民がコミュニケーションや外出の支援をします～	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年から、「失語症者向け意思疎通支援者養成研修」を実施。20名の意思疎通支援者が誕生 ・失語症友の会(会話サロン)を運営し、当事者と支援者のマッチングの場を担っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで7回の会話サロンを開催し、徐々に当事者の参加者が増加 ・当事者同士話したい、支援者と話したい等のそれぞれのニーズが出て、交流機会の拡大につながった